

2021年6月21日

令和3年度第1回 海岸工学委員会議事録

開催日時：令和3年6月21日（月）14:00～17:40

開催場所：ZOOM 会議

出席者：後藤前委員長，佐々木淳新委員長，森新副委員長，田島前幹事長，北野新幹事長，内山，荒木，遠藤，高橋，桑江，有川（各小委員長），鈴木，有働，安田，越村，小竹（各副小委員長），李，加藤史訓，桐，嶋原，瀬戸口，高川，坪野，西畑，原田，山城，渡部（各委員兼幹事），秋山，伊藤，入江，岩前，小野，柿沼，加藤茂，久保田，下園，末岡，田中，信岡，平野，宮武，宮本，山中，山本，横山，五十里（各委員），二宮（榎田代理），岡辺（中村代理），梶川（太田代理），渡邊（佐々木隆代理），柴山相談役。

議事録：五十里

資料：

- ・ 令和3年度第1回海岸工学委員会議事次第（資料1）
- ・ PowerPoint 資料（資料2）

■委員の就任および交代

- ・ 通常号小委員会の委員：嶋原委員→五十里委員
- ・ 土木学会出版委員会委員兼幹事：瀬戸口委員兼幹事→西畑委員兼幹事
- ・ 水工学委員会への派遣委員：武若前委員→山城委員兼幹事
- ・ 環境システム委員会への派遣委員：山中委員が継続

■議事前報告および議事録の確認

- ・ 前回委員会の議事録（WEB 公開済）を確認した。
- ・ 第67回海岸工学講演会（オンライン開催）について報告された。
 - 参加登録者：828名
 - 広報・出版小委員会の委員や有志でセッションのホストを担当
 - 収入：760万円（著者負担金など）
 - 支出：280万円（DVD作成・発送など）+230万円（管理費として土木学会へ）
→250万円程度が海岸工学委員会の2021年度予算へ
- ・ 2020年度活動度評価結果について、2020年度は行事参加者が3312名，出版物購読者数16名で合計3328名となり2500名を超えたため，評価Aとなったことが報告された。
- ・ 2021年度予算は，Aランク配分額93.4万円+拡充支援金250万円+2020年度予算繰り越し250万円程度=590万円程度であることが報告された。
- ・ 予算の有効な使い方についてアイデア募集中（小説家などの招待講演などの意見あり）

■2021-2022年度委員長選挙（田島前幹事長）

- ・ 委任者および出席者代理者を含む出席委員数（43名）が定足数（委員定数の2/3）に達していることを確認し，「土木学会海岸工学委員会委員長選挙細則（H25.6改正）」に則り，標記選挙を実施し，以下の結果となった。
 - 予備投票選出者：佐々木淳委員，森委員
 - 第2回投票選出者：佐々木淳委員
- この結果により，佐々木淳委員が2021-2022年度海岸工学委員会委員長に推薦され，

佐々木淳委員の承諾をもって決定された。

- ・ 後藤前委員長の退任挨拶および佐々木淳新委員長の就任挨拶がなされた。

■副委員長の推薦・承認，幹事長の指名，相談役の推挙（佐々木淳新委員長）

- ・ 佐々木淳新委員長の指名の下，以下の通り承認された。
 - 副委員長：森委員
 - 幹事長：北野委員兼幹事
- ・ 相談役として，岡安元委員長，水谷元 CEJ 編集小委員長が推挙され，承認された。
- ・ 小委員長の指名は，後日，委員長よりメールで報告されることとなった。

■海岸工学論文集第 68 巻特集号査読について（鈴木副小委員長，田島前幹事長）

- ・ 登録論文数：258 編（和文 237 編，英文 21 編）
- ・ 企画セッションは開催されない。
- ・ 査読者割り当て
 - 幹事会，論文集編集小委員会，その他の各グループから第 2 専門分野まで配慮
 - 査読数：11.4 編/人
- ・ 査読者：113 名（幹事 26 名，編集委 27 名，その他 60 名）
- ・ 通常号からの発表希望 3 編（該当合計 5 編中）
 - 査読ルールの変更により通常号からの発表希望の確認は不要になったことが報告された。
- ・ 審査手順およびスケジュールが確認された。
- ・ 第一段査読における査読者の平均点 3.70（6 点満点）は例年とほぼ同様であった。
- ・ 評価点の分布が示され，和文・英文の違いによる査読結果への顕著な影響は見られないことが報告された。
- ・ 査読結果は，18 点以上が 185 編，17 点が 21 編（内 2 または 1 がついた論文が 8 編），16 点が 23 編（内 2 または 1 がついた論文が 12 編）であった。
- ・ 採択案について
 - A) 16 点以上を採択：229 編（採択率 88.8%）
 - B) 17 点以上および 16 点で 2 点以下がないものを採択：217 編（採択率 84.1%）が論文編集小委員会から提案され，幹事会で議論した結果 A 案を採用することとした。
- ・ 16 点論文 2 編，17 点，18 点論文それぞれ 1 編に対し，1 名の査読者から 1 点と採点された論文があったが，投稿要旨，および査読コメントを論文編集小委員会幹部で確認した結果，4 編ともに第 2 段階にて評価して頂くこととし，採択として進めることとした。
- ・ 分野別投稿数は，A（波・流れ）：78 編，B（漂砂）：62 編，C（構造物・施設）：37 編，D（沿岸域の環境と生態系）：26 編，E～K（その他）：55 編
- ・ 分野別採択数・採択率が報告された。
- ・ 第一段審査に関する報告
 - 1 ページ目に著者情報が記載されている要旨 10 編→次年度以降，著者に徹底する。
 - 本論文の投稿，原稿が投稿されていないケースが各 1 編→著者に連絡し，要旨論文を投稿して頂いた。
 - 図面の文字化け→本人の自己責任とし，小委員会から著者への連絡はしない。
- ・ 要旨査読得点と本論文査読判定結果との関係，要旨査読得点と本論文査読得点との相関および各査読者による本論文査読点の分布が報告された。
- ・ セッション割り当ての検討が報告された。
- ・ 著者負担金（案）
 - 上限 40,000 円（見込み 35,000 円）
 - 発表のみの場合 20,000 円

➤ 論文集 DVD のみの頒布 3,000 円程度

■第 68 回海岸工学講演会シンポジウム開催案について（加藤史訓委員）

- ・ 日程：講演会開催期間中（11/10～11/12）の 1 時間半程度
- ・ 場所：岐阜市じゅうろくプラザ及びオンライン（ハイブリッド）
- ・ テーマ：「海岸の将来ビジョンとその実現に向けた取り組み」
 1. シンポジウムの趣旨説明
 2. 2100 年の海岸のあるべき姿
 - ◇ 海岸工学を専門としない研究者・実務者からの話題提供
 3. 海岸行政の動向（海岸保全基本方針の変更など）
 - ◇ 国土交通省水管理・国土保全局海岸室 田中室長
 4. 総合討論

■第 68 回海岸工学講演会準備状況について（小林・北野新幹事長）

- ・ 日程：2021 年 11 月 10 日（水）～12 日（金）
- ・ 会場：じゅうろくプラザ・岐阜大学サテライトキャンパス（一部の委員会のみ）
 - ハイブリッド開催
 - じゅうろくプラザ 5 階および岐阜大学サテライトキャンパスのみ飲食可能
- ・ 実行委員会：水谷（名古屋大，実行委員長），東海地方の各教員
- ・ 見学会
 - 名古屋港コース（定員約 50 名）：名古屋港見学（乗船）
 - 長良川河口堰コース（定員約 50 名）：長良川河口堰，輪中，排水機場（犀川）
- ・ 懇親会
 - 日時：11 月 11 日（木）18：30～20：30
 - 場所：岐阜ワシントンホテルプラザ スカイルーム
- ・ 1 か月前までなら会場キャンセル無料

■第 69 回海岸工学講演会準備状況について（嶋原委員）

- ・ 開催地：横須賀市
- ・ 日程：2022 年 11 月 9 日（水）～11 日（金）
- ・ 実行委員会：栗山（海上・港湾・航空技術研究所，実行委員長），鈴木（横浜国大），八木・嶋原（防衛大），田島・下園（東大），福谷（関東学院大），有川（中央大），高川（港空研），今井（JAMSTEC）
- ・ 後援：横須賀市（予定），国土交通省関東地方整備局（予定）
- ・ ハイブリッド開催を前提
- ・ 会場について
 - 案 1：ベイスクエアよこすか（5 会場，複数施設）
 - ◇ 11/9：完全オンライン，11/10 午後および 11/11：対面およびオンライン
 - ◇ 予算：約 145 万円
 - ◇ 発表数は 235 を想定．投稿数が多い場合は 8 日にオンラインで実施
 - 案 2：ヴェルクよこすか（4 会場，1 施設）
 - ◇ 全日程対面で可能（オンライン配信は行う）
 - ◇ 予算：約 35 万円
 - ◇ 発表数は 244 を想定．投稿数が多い場合は 8 日にオンラインで実施
- ・ 火曜日も含めた 4 日間開催も考慮に入れる．企画セッションを行うならば 4 日間開催の可能性が濃厚

- ・ 前日シンポジウム・見学会・懇親会は今後検討→前日シンポ・見学会は土曜日開催も考える.
- ・ 横須賀市から補助金最大 30 万円が出る可能性がある (ホテルの宿泊人数に条件).

■第 56 回水工学に関する夏期研修会 (Bコース) について (山中委員)

- ・ 日程 : 2021 年 8 月 30 日 (月) ~ 31 日 (火)
- ・ オンライン開催 : Zoom によるリアルタイム遠隔方式
- ・ 統括担当は水工学委員会
- ・ テーマ「海岸災害対策におけるこれからの論点と適応技術」
 - 佐藤慎司 (高知工科大学・教授) : UAV を用いた海岸情報マッピング技術
 - 福谷陽 (関東学院大学・准教授) : 確率論的津波ハザード評価とその利活用
 - 相澤幹男 (四国地方整備局高知港湾・空港整備事務所・所長) : 高知港海岸における三重防護による地震・津波対策について
 - 磯部雅彦 (高知工科大学・教授, 学長) : 高潮の基礎と防災の枠組み
 - 河野達仁 (東北大学・教授) : 海岸河川防災計画における経済学的手法の適用 : 土木技術者 Dupuit の分析を現在に活かす
 - 富田孝史 (名古屋大学・教授) : 津波, 高潮・高波に対する防災・減災のこれまでとこれから
 - 馬場俊孝 (徳島大学・教授) : 分散性を考慮した津波伝播計算

■第 57 回水工学に関する夏期研修会 (Bコース) について (北野新幹事長)

- ・ 関東地区で開催 (東大本郷キャンパスで検討中)
- ・ 幹事は下園委員. 水工学委員会の幹事は小田僚子教授 (千葉工大)
- ・ 2023 年は北海道開催の予定 (幹事は水工学委員会)

■Coastal Engineering Journal について (内山小委員長)

- ・ 2018 IF : 2.016 (129/64) → 2019 IF 2.032 (128/63)
- ・ 投稿から最終判定までの平均所要日数
 - 2018 年 Accept 38, Reject 21
 - ◇ Accept 論文 : 226.0 日
 - ◇ Reject 論文 : 87.6 日
 - ◇ 全平均 : 176.7 日 (WSP から T&F への移行のため短い)
 - 2019 年 Accept 36, Reject 23
 - ◇ Accept 論文 : 282.4 日
 - ◇ Reject 論文 : 92.4 日
 - ◇ 全平均 : 208.3 日
 - 2020 年 Accept 41, Reject 40 (12/31 まですべて)
 - ◇ Accept 論文 : 201.4 日
 - ◇ Reject 論文 : 57.3 日
 - ◇ 全平均 : 130.2 日
- ・ 2020 年は全 41 編 (Survey Rep. 2 編)
- ・ 出版社とトラブルがあった場合は小委員会に連絡をしてくださいとのこと
- ・ Special Issue on Coastal Blue Carbon and Green Infrastructure (2021 年発行予定)
 - Guest Editors: Tomohiro Kuwae and Stephen Crooks
 - 採択済 13 編, 査読中 1 編
- ・ Special Issue on Coastal Hazards and Risks due to Tropical Cyclones (2022 年発行予定)
 - Guest Editors: Yoshimitsu Tajima and Andrew B. Kennedy
 - 査読中 9 編

- ・ 2023 年 Special Issue のアイデア募集中
- ・ 国別投稿数内訳が報告された。
- ・ CEJ Award 2020
 - 選考手順が説明され、以下の論文が受賞することが承認された。
Rafael Aránguiz et al. (2020) The 2018 Sulawesi tsunami in Palu city as a result of several landslides and coseismic tsunamis, Coastal Engineering Journal, 62:4, 445-459.
- ・ CEJ Citation Award 2020
 - 選考手順が説明され、以下の論文が受賞することが承認された。
Xing Zheng et al. (2017) Corrected first-order derivative ISPH in water wave simulations, Coastal Engineering Journal, 59:1, 1750010-1-1750010-29.
- ・ JAMSTEC 中西賞
 - 選考手順が説明され、以下の論文が受賞することが承認された。
Naoto Kihara and Hideki Kaida (2020) Applicability of tracking simulations for probabilistic assessment of floating debris collision in tsunami inundation flow, Coastal Engineering Journal, 62:1, 69-84.
- ・ CEJ Reviewer Award 2020
 - 選考手順が説明され、以下7名を表彰することが承認された。
Yoshimitsu Tajima・Takenori Shimozono・Yukinobu Oda・Wei-Liang Chuang・Eiji Harada・Yuma Shimizu・Satoshi Takewaka
- ・ CEJ 著作権料（印税）の用途について（案）
 - CEJ 招待論文
 - 海岸工学講演会への投稿料免除
 - CEJ スカラーシップ・フェローシップ
 - CEJ 英文校閲補助
 - 海岸工学講演会への外国人招聘
 - CEJ SI インセンティブ
 - オープンアクセス・インセンティブ
 - CEJ ノベルティの制作と学会等での配布
 →内山小委員長と執行部に一任されることとなった。

■広報小委員会（荒木小委員長）

- ・ 主に Web 情報の充実に関する報告があった。
- ・ 第 68 回海岸工学講演会について
 - 会場での企業展示→ハイブリッド開催でも展示希望か？1 社のみ希望との回答
 - 現地会場での論文集 DVD 販売時の USB メモリ→企業の判断に一任する
 - 講演プログラム紙面上・論文集 DVD 内の広告は例年通り募集

■研究小委員会の活動について（沿岸域：遠藤，減災アセス：北野，津波：高橋，気候変動：桑江，地盤材料：有川 各小委員長）

- ・ 沿岸域研究連携推進小委員会
 - 体制の変更およびメンバーを更新予定であることが報告された。
- ・ 減災アセスメント小委員会
 - 活動内容・状況が報告され、報告書が web で出版予定であることが報告された。
- ・ 津波作用に関する研究レビューおよび活用研究小委員会
 - 活動内容・状況が報告され、Journal of Disaster Research で特集号を発表予定（2021 年 10 月 1 日）であることが報告された。
- ・ 沿岸域の気候変動影響・適応検討に関する小委員会
 - 活動内容・状況が報告され、成果の総括を小委員会 HP 上で公表済みであることが

報告された。

- 今後研究会（代表：有川委員）へ移行する予定であることが報告された。
- ・ 水理模型実験における地盤材料の取扱方法に関する研究小委員会
 - 活動内容・状況が報告され、2021年9月に成果を出版予定であることが報告された。
 - 今後研究会（代表：宮本委員）へ移行する予定であることが報告された。
- ・ 研究会への移行については後日メール審議

■その他

- ・ JSCE-CCES joint symposium について（北野新幹事長）
 - 日程：2021年10月20日（水）～10月22日（金）
 - オンライン開催
 - 日本側の登壇者が報告された。
- ・ 土木学会論文集通常号投稿カテゴリーの見直しについて（北野新幹事長）
 - キーワードの名称変更等について執行部に一任されることとなった。
- ・ 土木学会論文集査読システムについて（北野新幹事長）
 - 今後通常号のシステムである EM へ移行するかどうかの決断が必要になるとの報告がなされた。
- ・ 戦略 WG の検討について（佐々木淳新委員長・原田委員兼幹事）
 - ポスター発表導入に対するアンケート結果の概要が報告された。主な意見は以下の通り
 - ◇ “どちらかといえば導入してもよい” が多数
 - ◇ 質の担保は必要
 - ◇ 高校生発表には賛成多数
 - 2022年海岸工学講演会でのサイドイベントとしてオンラインによるポスター発表の試行的実施が提案され、WGで検討することが承認された。なお、査読システムとは切り離れた運用を考える。
 - その他アンケート結果について報告された。主な意見は以下の通り
 - ◇ 投稿スケジュール：4月末〆切、5月にフルペーパー査読
 - ◇ 開催方法：土日開催、ハイブリッド開催
 - ◇ 発表・表彰：優秀講演賞、ポスター発表賞、基調論文・講演、招待講演、基礎的な学問の勉強・議論の場、現場からの発表
 - ◇ 海洋開発論文集関連：違いを明確に、学術レベルの担保
 - ◇ 発表件数の適正規模：件数を増やすより審査を厳格に、少ない件数でも成り立つように講演会の体質を変えていくべき
 - ◇ 海岸工学講演会はハードルが高い。アウトスタンディング・ディカッション賞を設けてはどうか。大学院生が参加しやすい方法を検討していただけるとありがたい
 - cecom への登録について：海岸工学論文集に投稿された方は断りを入れて自動的に登録してはどうか→具体的方法は執行部と広報小委員会で検討することとなった
- ・ 予算の有効な使い方についてアイデア募集中（議事前報告のとおり、今年度予算に、コロナ禍による前年度の繰越しが含まれているため）

以上